

【2023年度】児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表年月	2024年2月	事業所名	ハッピーライフあさひ
------	---------	------	------------

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		運動遊びが十分に行えるように広さを確保し、児童が安全に活動できるよう利用定員を順守している。	
	2 職員の配置数は適切である	○		運動遊びが十分に行えるように広さを確保し、児童が安全に活動できるよう利用定員を順守している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		絵カードや番号、スケジュール表などを設置してわかりやすいように日々努力している。	入口にスロープがついていないため、車いすでの来所は少し難しい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日々の清掃はもちろん、空間を開けることでのびのびと活動ができるようにしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日の朝礼や終礼で常に話し合いを行い、変化を持たせ、振り返りを行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者アンケートを行い、保護者の思いを真摯に受け止めている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		毎年アンケートを行っています。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		随時、研修や研修会に参加している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		半年に一度のペースで保護者面談を行い、意見交換をしながら作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		規定のものを使っています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		職員間で話し合いながら、具体的に作成できるように努めています。	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員間で確認しながら行っています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		子どもの成長や経験につなげていけるようにチーム全体で考え、決定しています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		新しい経験を目指して少し難しいチャレンジもできるように考えています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別活動で集中できる時間やスタッフと一対一で楽しめる時間と共に集団遊びの時間を設けてスタッフや友達とかかわりを持って活動ができるように努めています。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼にて人数確認とともに流れを確認しています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼にて話し合いを行っています。	
関係機関や保護者との連携	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		必ず一人一人記録を書いています。支援についてなにかあったときはその都度話し合いをしています。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		職員間で話し合いながら支援について日々検討し、判断しています。	
	21 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		主に児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			関係機関と連携した支援は行えていない。
関係機関や保護者との連携	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			医療的ケアが必要な児童がいないため、今後考えていきたい。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			医療的ケアが必要な児童がいないため、今後考えていきたい。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	25	○		必要な児童については行う場合もある。	
	26	○		必要な児童については行う場合もある。	
	27		○		受けていない。
	28		○		外遊び等でかかわる機会があるが、ほかの施設との連携は行っていない。今後、交流をしていきたいと思っている。
	29		○		積極的な参加はできていない。
	30	○		送迎時の情報交換や面談を通して情報交換を行っている。	
	31		○		ご家族に寄り添う支援を意識しているがペアレント・トレーニング等は実施していない。
	32	○		契約時に行っている。	
	33	○		作成時にご説明をさせていただき、同意を得ている。	
保護者への説明責任等	34	○		ご相談を受けたことに対して真摯に受け止め、適切な助言や一緒に考えていけるよう意識している。	
	35	○		事業所で保護者が集まれる機会を設けました。始めたばかりなので、今後も続けていきたいと思っています。	
	36	○		できる限り迅速に対応できるようにチームで連携をしながら努めています。	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	37	○		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	ホームページやブログにて発信している。
	38	○		個人情報の取扱いに十分注意している	職員一人一人が意識して注意している。
	39	○		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	その日に起きたことや些細な変化もすべてお伝えできるように努めています。
	40		○	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	積極的には行っていないが、今後も行っていきたい。
非常時等の対応	41	○		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	マニュアルを作成しており、訓練も随時行っている。
	42	○		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	訓練を随時行っている。
	43	○		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	契約時や面談時に随時確認している。
	44	○		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	指示書がある場合はその対応をしている。家庭での対処方法を聞き、保護者情報交換をしながら行っている。
	45	○		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	終礼の時に話し合い、ヒヤリハットだと思われる事象に対して記入している。
	46	○		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	研修の機会を設けている。
	47	○		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	保護者説明を行い同意を得たうえで、やむを得ない身体拘束を行った場合には記録をしている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。